

本会の石本会長と福嶋理事が掲載されました。これは、熊本県高齢者支援課が、県内の介護業界の魅力をPRするために『介護の日』イベントとともに企画された関連記事です。

福嶋 ふくしま 穂波さん (医療法人堀尾会 老人保健施設 第二「スモピア熊本」 尾ノ上地区 広報担当 副部長)

「小さな喜びの積み重ね」がやりがいに。国家資格を持ったエキスパートを応援します。

保育士を経て、介護福祉士の資格を取得しました。3年の実務経験はありましたが、まだ半人前。専門的な知識と技術の両方を身につけた介護を行いたいとチャレンジしました。試験勉強は大変でしたが、資格を取得して初めて、スタートラインに立てた気がしたんです。



意識しているのは「さりげない介護」。朝にはすがすがしく目覚めていただきたいし、夜はゆめへり熟睡していただきたい。その思いはごなま変わりませんが、利用者様ひとり一人へのケアのポイントは違



ます。さりげない声かけや介助で、「あなたで良かった」と言ってもらえたときの喜びは計り知れないものがあります。そんな小さな喜びの積み重ねが、私たち介護職員

のやりがいに繋がっています。

介護職はキツイ、活いといったイメージがあると思いますが、まずは考え方や受け止め方ではないでしょうか。朝から夜までの支援ですし、排泄物の処理なども行います。決して楽な仕事ではありませんが、誰かの役に立ちたいという強い気持ちを持って行える方ならば、きっと生き生きと輝けるステージになります。県の介護福祉士会としても、そんな若い方のチャレンジを応援し続けたいと思っています。

石本 いしもと 淳也さん (一般社団法人熊本県介護福祉士会 会長)

「人間力」を活かして人の幸せを追求する。だから介護は面白い！

ここ数年、介護業界を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。本格的な高齢社会を迎え、世の中の関心が高まってきたのがチャンス。大学での講義や県内外の講演会などで、「なぜ世の中に介護が必要なのか」として介護は面白い！。このテーマを積極的にアピールしています。現在県内には、介護従事者の方々が約2万人いらっしゃいます。私たち介護福祉士会が、職員の方々が生涯やりがいを持って続けられる風土を作っていくかなくてはならないと思



っています。福祉には、「幸福の追求」という意味があります。私たちは「介護福祉士」を通して、人の幸せを追求するプロであるべきです。若いうちは給料や待遇の面などで、不満があるかもしれませんが、しかしまず言えるのは、自分たちでもっと高めあおうという意識を持つべきだということです。介護の仕事は、単なる介助だけでなく、語りかけたり、話術にたけている人、企画を立てるのが好きな人、それぞれが持っている個性も活かせる仕事だと思っています。そんな「人間力」を見つけて、個々の能力を伸ばすことが、この業界にとりどん新しい風を取り入れることになると思っています。



とあります。福祉には、「幸福の追求」という意味があります。私たちは「介護福祉士」を通して、人の幸せを追求するプロであるべきです。若いうちは給料や待遇の面などで、不満があるかもしれませんが、しかしまず言えるのは、自分たちでもっと高めあおうという意識を持つべきだということです。介護の仕事は、単なる介助だけでなく、語りかけたり、話術にたけている人、企画を立てるのが好きな人、それぞれが持っている個性も活かせる仕事だと思っています。そんな「人間力」を見つけて、個々の能力を伸ばすことが、この業界にとりどん新しい風を取り入れることになると思っています。

